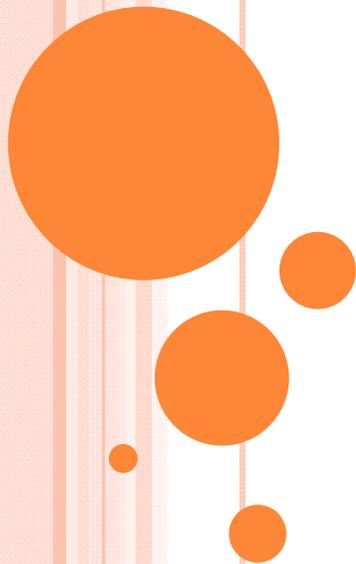


EPA看護師候補者 受入れ事例



医療法人 陽和会
春日井リハビリテーション病院
管理部 古川 敦

概要

- 所在地 愛知県春日井市神屋町706番地
- 開設者 医療法人 陽和会 理事長 福井雅子
- 病院長 福井 雅子
- 病床数 一般病床 36床(1棟)
療養病床 240床(4棟)
- 診療科 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、
神経内科、皮膚科、精神科、心療内科、
リハビリテーション科
- 職員数 250人
うち常勤医師7名、看護師47名、准看護師41名、介護士81名



受け入れ当初の目的

- **看護師不足解消のため**

全般的に看護師不足である中、求人依頼しても思うように職員が集まらないため。

- **組織の活性化**

日本人職員に刺激を与え、組織の活性化を期待する。

- **将来の備え**

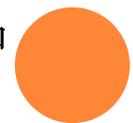
EPA看護師を雇用する事により、今度の外国人労働者を雇用する際の基盤とする。



受入実績

- 平成21年 1月 インドネシア人看護師候補者 5名
- 平成21年11月 フィリピン人看護師候補者 3名
- 平成22年 1月 インドネシア人看護師候補者 3名
- 平成22年 11月 フィリピン人看護師候補者 1名
- 平成22年 12月 インドネシア人看護師候補者 2名
- 平成24年 1月 インドネシア人看護師候補者 2名
- 平成24年 11月 インドネシア人看護師候補者 2名
- 平成25年 12月 インドネシア人看護師候補者 5名
- 平成26年 8月 ベトナム人看護師候補者 2名
- 平成26年12月 インドネシア人看護師候補者 2名

延べ27名



合格実績

- 平成23年 第101回看護師国家試験 1名合格
- 平成24年 第102回看護師国家試験 1名合格
- 平成25年 第103回看護師国家試験 1名合格
- 平成26年 第104回看護師国家試験 1名合格



現状

○就労者 10名

- 内訳 ○看護師 2名(尼人 2名)
○看護師候補者 8名(尼人 6名 越人 2名)

○退職者 のべ17名 平成27年4月17日現在

- 内訳 ○国家試験不合格 8名
・1年延長あり 4名 ・1年延長希望せず 4名
○自己都合 9名
・看護師として就労後に結婚退職 1名
・国家試験合格したが自己都合による退職 1名
・EPA期間中に本人の事情により退職 7名



受入環境の整備

就労環境と学習環境の整備

- シフトと休日の固定

シフトは日勤帯のみとして、休日は土曜日・日曜日で固定することにより、勉強の効率化アップ

- 宗教(イスラム教)への配慮

- ・ラマダン(断食)時の勤務負担軽減
- ・教会への礼拝(男性のみ毎週金曜日)
- ・お祈りの場所の確保(女性のみ)

- 自習室の確保

- ・院内の図書室を自習室に提供



受入環境の整備

学習計画

- 候補者の学力・来日からの経過年数などを考慮して個々の能力に合わせて学習計画を立てている。
 - ★就労開始間もない候補者は日本語中心
 - ★ラストチャンスになる候補者はマンツーマン
- 就業時間内の学習は1時間/日。
- コメディカルによる専門分野の講義。
- 模擬試験(テコム、東京アカデミー、学研等)1回/月
- 外部からのボランティアによる講義(1~2回/月)



受入担当者から見た インドネシア人とベトナム人

インドネシア人

- 注意されても淡々としている。
- 『わかりました』と言っても本当に理解していない事が多々あるので必ず確認が必要である。
- 契約に無関心。
 - ★イスラム教徒の場合は宗教への配慮(ラマダン・ジルバブ着用)がされていると就労や賃金等事に対して文句や要望を言わない。
 - ★無理や条件も吞んでしまうことがあるので、施設の担当者は気をつけなければならない。
- 出身地で基礎学力の差がある。ジャカルタ出身と小さな島の出身では基礎学力の差が大きい。



受入担当者から見た インドネシア人とベトナム人

ベトナム人

- 契約(特に賃金・休日)にシビアなので、求人登録時に事細かに条件を書いておくと就労後に施設と候補者の行き違いが少なくなる。
- シフトに対しての要求が多い。
 - ★母国家族へたくさん仕送りをしたいためか手当がつくシフトを希望する。
- 看護師国家試験に対してのモチベーションが非常に高い。
 - ★第6陣尼人看護師候補者たちより点数が高かった。
- 英語が通じないので、専門用語に英語が入ると対応できないが漢字に対しての理解は早い。
- 理解が早い。注意・指摘したことはすぐに改善する。就労後3ヶ月で独り立ちできた。
- 感情がすぐに顔に出る。
 - ★指摘・注意をするとすぐに顔に出る。



受入担当者から見た インドネシア人とベトナム人

インドネシア人とベトナム人共通

- 控除(住民税・所得税・健康保険料等)の理解がない。
 - ★求人登録に記載する欄があるが、候補者は理解していない。
 - ★手取りの説明をすると、候補者の表情が曇る。
- 介護という概念がない。
 - ★患者に対して力任せの介助や、1人で行うことが多いです。なぜ力任せの介護がだめなのか、1人で移乗介助などを行うとどんな危険があるのかきちんと説明することが必要。
- インドネシア人は割り切って看護助手の仕事をしているがベトナム人は納得していない。
 - ★病院の形態(急性期・慢性期)で看護助手の役割も大きくかわります。求人登録時に国家試験取得前の就労内容を書くが、理解していない候補者が多い。



看護部国家資格取得後の定着のポイント

- 受入部署は職場に溶け込めるように気を配る。
- 候補者も日本の風習を理解する。
 - ★ 候補者時代に良好な関係が築けると、看護師になってからも人間関係で苦労しません
- 仕事以外のプライベートでの生活を充実させる。
 - ★ 国内外の旅行に行く・自動車免許を取るなど

